



西脇市Facebookでも情報発信中！紙面に載せきれないまちの話題がどんどん届きます。



姉妹都市・米レントン市からパポーネ市長ら来西

姉妹都市のアメリカ・レントン市からアルモンド・パポーネ市長ら9人が10月2日～5日、市民親善使節団員として本市を訪問。市内観光や日本文化の体験を通して、市民ボランティアの皆さんと交流しました。

一行は市制20周年記念式典に合わせて訪れたもので、市民親善使節団の訪問は9年ぶり。2日に片山象三市長を表敬訪問し、パポーネ市長は「記念式典に出席できることを誇りに思います。1969（昭和44）年から続く交流を今後も続けていきたい」と述べました＝写真上、左下。

また、今年はコロナ禍を経て6年ぶりに中学生親善使節団の相互派遣を再開。本市からは8月にレントン市を訪れており、7日～13日はレントン市の中学生が本市でホームステイをしながら日本の生活や文化を体験しました＝同右下。



市民スポーツ大会開幕

72回目となる「市民スポーツ大会」が開幕。総合開会式では全国大会で優秀な成績を収めた16人と4団体に表彰状が贈られました。同大会では3ヵ月にわたり、市内各所で熱戦が繰り広げられます。〔10月5日／総合市民センター〕



子どもを事故から守ろう

子どもたちを不慮の事故から守ろうと、西脇市と多可町の消防団が防災講演会を開催。大阪大学大学院特任研究員の岡真裕美さんが講演し、参加した団員ら133人は子どもの安全について学びました。〔9月20日／みらいえ〕



和牛の肥育成果競う

みのり農業協同組合主催の黒田庄和牛畜産共進会に、市内の畜産農家が11頭を出品。県の職員らが牛の体格や張り具合を審査し、山崎純子さんの「芳彦」が最優秀賞に輝きました。〔9月26日／JAみのりライスセンター〕



西脇出身の大スターがい旋「故郷が愛おしい」

市制20周年を記念し、市民交流施設がミュージシャン・トータス松本さんと元プロボクサー・長谷川穂積さんによる「トーク&ライブ」を開催。フリーアナウンサーの八木早希さんが司会を務め、観客約600人は西脇が生んだ大スターの講演や歌を楽しみました。

長谷川さんは「強い意志を持って臨めば道は拓ける」という座右の銘「意志道拓」を紹介。「チャンスが来たときにものにできる実力を身に付ける必要がある」と説きました。

また、トータス松本さんは西脇チェックの播州織シャツを着て舞台に登場。ギターの弾き語りでもウルフルズの人気曲など7曲を熱唱しました。

終盤には3人が登壇し、地元愛が詰まったエピソードを披露。「故郷が愛おしい」などと話しました。

〔10月5日／市民交流施設〕



昔話に花咲かせ認知症予防

心理療法の一つで、認知症の予防や進行抑制に効果があるとされる「回想法」を取り入れたイベントに105人が参加。日本認知症予防協会代表理事の佐々木誠さんによる認知症予防に関する講演に続き、司会を務めた関西テレビの関純子アナウンサーとともに懐かしい映像を見ながら思い出を語りました。〔10月10日／市民交流施設〕



ものづくりの魅力再発見

地域資源を生かして活性化を図ろうと開かれた地域一体型のオープンファクトリー「もっぺん」に、西脇市と多可町にある25の事業所が参画。繊維業や製造業、建築業など、さまざまな分野の事業所が生産現場を一斉に公開し、市内外の参加者が見学や体験を通してものづくりの魅力を体感しました。〔9月26日～28日／西脇市・多可町内〕